

大通公園を望む窓辺から

わが街手稲っていいね

副会長 ^{すずき}鈴木 ^{のぶかず}伸和

手稲は明治の初期に北海道の開拓を支える交通の要衝として開けた街である。北海道の開拓当時、物資の補給は主に小樽港を基点に行われており、そこから開拓使本府が置かれた札幌へ陸上輸送されていたのだが、その中継点となっていたのが手稲である。小樽や石狩とは運河でもつながっていた。明治の中頃には手稲山で金鉱脈が発見され昭和10年代にはその最盛期を迎えていたとのことである。このような街に落下傘的に開業したのは今から28年前のことであるが、今ではすっかりこの街に魅了されている。

本タイトル「手稲っていいね」はけっして私が思いついたダジャレではない。れっきとした手稲区の正式なキャッチフレーズである。正しくは「ていねっていいね」とひらがなで表記し、よりダジャレ感を強調している。ちょっと照れるがまっすぐでいいと思う。

ダジャレといえば、手稲区のマスコットキャラクター「ていぬ」。これもまたダジャレであり、頭が手の形をした犬、これが「ていぬ」の正体である。でも実際には手稲という地名は手とも稲とも無関係。その語源はアイヌ語の「テイネ・ニタツ」（濡れている・湿地）もしくは「テイネ・イ」（濡れている・所）で、低温地帯であったことから名づけられたものなのだが。

手稲神社秋季例大祭は毎年のゲストが素晴らしい。例えば2024年は岩崎良美で2023年は岩崎宏美、2022年は柏原芳恵といった具合である。コロナ前には元ピンク・レディーの未唯mieも登場しており、昭和のアイドルのオンパレード、我々の世代にとって垂涎のスターたちが毎年ゲストとして招かれている。次は一体誰が来てくれるのか、考えただけでワクワクする。やっぱり思う。わが街手稲っていいね。



©TEINE WARD SAPPORO

小樽港あれこれ

理事 ^{すずき}鈴木 ^{としお}敏夫

小樽港は1869年に商港として指定され、1899年に外国貿易港として指定されました。開基155年、開港125年となります。ちなみに1869年は蝦夷から北海道へ、オタルナイから小樽へと名称が変更された年でもあります。日本海の荒波から港を守る防波堤は、最初に北防波堤、続いて南防波堤が建設されました。北防波堤は、札幌農学校二期生として入学した土佐（高知県）出身の廣井勇博士による設計で1908年に完成しました。セメントに火山灰を混ぜたコンクリートのブロックを斜めに積み上げて強度を上げています。使用されたコンクリートのサンプルを6万個以上作り、毎年その経年変化と耐久性を確かめる試験（100年試験）は現在でも継続されています。

ル・ソレアル、シルバー・シャドー、コスタ・セレーナ……、そんなクラブがスキノにあったかなと思われる会員の方もおられると思いますが、クイーン・エリザベス、ダイヤモンド・プリンセス、飛鳥IIと続くとクルーズ船であることがわかってきます。JR小樽駅からまっすぐ下がったところにある第3号埠頭は今年大規模整備をほぼ終了し、14万トンクラスの船も接岸できるようになりました。今までは駅から少し離れた勝納埠頭を利用していました。駅を降りた観光客の方が正面に堂々たる大型客船を見ることができるようになりました。

小中高と一緒に釣りが好きの同級生と、お互いに地元の医師会役員と副市長として一緒に仕事をするということになるとは露知らず、のんびり竹竿を出してサバやチカを釣っていました。エゾメバル（ガヤ）は文字通り岸壁の縁にたくさん群れていました。ネットで思わず購入しただけで長年使っていない釣り竿があることは、我が家の最重要機密となっています。

